

東レ株主総会議事要旨

20200623

日時：2020年6月23日10時～11時00分

場所：東京国際フォーラム Cホール

(出席株主数などについての説明はなし。)

議長（日覺社長）から、報告事項、決議事項の説明

その後、提案株主（ストラテジックキャピタル松橋）から株主提案の説明

(以下は、すべてストラテジックキャピタル松橋の発言等であり、他の株主の発言は割愛している。)

<議案説明：株主提案を行った背景及び議案について>

- ・ 弊社は「蝶理と東レの株主価値向上に向けて」というウェブサイトを公開して東レの親子上場の問題の説明をしている。そのサイト内では「親会社取締役が資産である子会社株式の価値を向上させる責務があるという法制審議会における整理」など、この場では説明しきれないが、親子上場の問題を中心に解説している。是非、取締役、株主の皆様にもご覧いただきたくお願い申し上げます。

- ・ 株主提案の背景として、親子上場の問題で東レの子会社で実際に起こっている問題を簡潔に申し上げると、上場子会社である蝶理は20年3月期に4期連続で経常利益の最高益を更新したが、株価は2,000円前後を上値として推移し続けている。株価が上がらない理由は稼いだ利益を自己資本として積み上げているからだ。その結果として、資本効率性が低下してしまうため、本来もっと高い評価を受けるべきなのに低い評価しかされない。
- ・ 東レの統合報告書には「取締役（及び監査役）は、株主によって直接選任されることにより、経営を付託された者として重大な責務を負っていることを明確に認識し、それぞれの役割を適切に果たすとともに、経営の状況について株主を含むステークホルダーへの説明責任を果たしていきます。」と書かれている。
- ・ 我々は株主提案を行う前に、この子会社の問題について東レの村山代表取締役と面談した。その面談では東レにとって蝶理は良い会社であるとの説明に終始し、子会社の現状に向かい合おうとされる考えをお示しいただくことは叶わなかった。
- ・ そして、先週の蝶理の株主総会において確認したが、驚くべきことに本年5月に蝶理が策定した中期経営計画に東レは一切関与していないとのことだ。
- ・ このように株主価値を毀損する経営をする子会社を放置しているようでは、

東レの取締役が親会社取締役の責務を果たしているとは言えないだろう。

- ・ 本総会において提案している議案は、経済産業省が策定した「上場親会社に求められる上場子会社に関する対応」を、東レに実行していただくための提案だ。
- ・ 是非、この株主提案の趣旨をご理解いただき、経営陣の皆様は親子上場の問題を真剣に検討いただきたい。

<発言①：議決権行使について>

- ・ 第2号議案の取締役選任議案について、新任の方を除く日覺社長以下全ての取締役候補に反対する。また、新任社外取締役の神永氏及び二川氏については棄権する。重任の取締役の方々に反対する理由は、親会社取締役として子会社監督責務を果たしているといえないこと等だ。
- ・ また、第4号議案の役員賞与支給の件については、業績悪化局面での支給であるため反対する。

<発言②：東レの反対意見について>

- ・ 弊社の株主提案に対する反対意見には、蝶理を“上場”子会社とする理由として「商社として重要な経営資源である優秀人材を広く獲得し、モチベーショ

ンを高めること」と書かれている。

- ・ まず、人材を集めるために子会社を上場させることは不適切だ。また、株主提案の反対意見にあるように本当にその目的のために蝶理を上場させているのであれば、同じ商社である東レインターナショナルを上場させていないのか。そもそも、株主提案に反対するという結論を決めて作文したから、このように矛盾した意見を表明することになったのだろう。

<意見③：株価のバリュエーションと親会社取締役の責務>

- ・ 先日蝶理の取締役役に就任された大矢取締役役に申し上げる。東レのPBRは0.8倍を下回っており、蝶理のPBRも1倍を下回っている。親子そろってこのように低い株価のバリュエーションとなっている状態を放置しないでいただきたい。
- ・ 特に蝶理の株価は恒常的にPBR1倍を下回っている。上場子会社の蝶理の株価の評価が低い理由の1つは、東レの取締役が親会社としての責務を果たしていないからだ。今後、親子上場に対する監視の目がますます厳しくなる。是非、東レと蝶理の親子上場の関係を見直す役割を主導的に果たしていただきたい。

<発言④：親子上場及びCGコード>

- ・ 日覺社長に申し上げる。株主提案は東レが蝶理を上場子会社とし続ける前提で、どうすれば東レグループとしての株主価値が向上するか弊社として考えたものだ。しかし、本来的には親子上場は解消すべきだ。
- ・ 不適切な目的のために子会社を上場させるのではなく、親子上場を解消していただきたい。
- ・ 日覺社長は、かつてコーポレートガバナンス・コード（以下「CGコード」という。）に対し公然と反対意見を唱えておられたが、東レは全てのCGコードをコンプライしている。日覺社長は今はCGコードに賛成なのか。または、取締役会では反対を唱えたが多数決でCGコードをコンプライしているのか。

会社提案を可決、株主提案を否決して、株主総会終了。

以上